

平成29年度 山三留守家庭児童育成室の検証結果について

平成30年8月

吹田市教育委員会

地域教育部放課後子ども育成課

吹田市立山三留守家庭児童育成室「すずめ学級」（以下、「山三育成室」とする）については、平成28年4月からこれまでの直営での運営から、社会福祉法人光聖会（蓮美幼児学園千里丘キンダースクールを運営）に業務委託している。なお、当該社会福祉法人は、平成27年度から、吹田市立千里丘北留守家庭児童育成室運営業務を委託しており、山三育成室運営業務については、2室目の受託となる。

児童福祉法においては、事業に必要な水準を確保するために市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運営業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下、「育成室」とする）に関しては、直営で運営している育成室とは違い、前述のような観点から、放課後子ども育成課による検証を行い報告するものである。

～検証方法～

- 1 放課後子ども育成課職員〔担当事務職員、スーパーバイザー（元公立保育園保育士：SV）〕による現地視察（週1回程度）
- 2 保護者へのアンケート：年間2回
（1学期・夏休み2学期利用について、年間利用について）
- 3 事業者への聴き取り
- 4 チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

1 山三育成室の児童数について

山三育成室については、平成30年5月時点で71名在室しており、学年の内訳として1年生が20名、2年生が23名、3年生が18名、4年生が10名となっており、うち、配慮を要する児童（障がいをもつ児童）が1名在籍している。2教室の運営（1教室の定員は40名）で、1教室当たりの児童数は35もしくは36名となっている。児童数の規模としては、36育成室中24番目であり、育成室の中では少ない方である。

2 山三育成室への入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）の推移について

山三育成室の平成26年度から平成30年度までの入室率は、【表1】のとおりとなっている。例年、山三育成室の入室率については、全育成室平均入室率の前後3、4%を推移しており、業務委託が開始した平成28年度も同様の動きをしているが、平成30年度の入室率は、38.1%とかなり高く、全育成室平均を大幅に超えている。これは、後述の

アンケートの集計結果のとおり、児童、保護者ともに山三育成室の満足度が高かったことにより、入室率が上昇したのではないかと考えられる。

【表 1】山三育成室の入室率の推移（1年生～3年生、5月1日時点）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
山三育成室	24.5%	21.9%	22.0%	28.4%	38.1%
全育成室	22.2%	24.1%	26.0%	27.4%	28.5%

3 山三育成室の指導員配置について

山三育成室の指導員の配置については、2教室での運営であるため、教室に配置する指導員は4名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が1名必要であるため、1日当たり5名の指導員の配置が必要である。勤務形態や保有資格等の内訳については、正規雇用の指導員が、主任指導員を含め3名、非正規（アルバイト）指導員が2名、となっており、全員が週5日勤務する形態をとっていた。これらの者が休暇を取得した場合等、山三育成室で勤務できない場合は、余裕を持って配置をしている千里丘北育成室からの応援を行っており、同じ事業者による複数の育成室運営業務の委託により、柔軟な指導員配置が可能となっている。保有資格としては、5名全てが保育士もしくは教員の資格を保有しており、有資格者による安定的な運営を行っている。

また、当該委託事業者の正規雇用の指導員は、午前中に、委託事業者が運営する認定こども園で保育補助の勤務を行い、育成室開室時間の13時から、育成室の勤務を行っている。こうすることによって、一般的なフルタイム勤務と同じ勤務時間となり、フルタイム勤務の正規雇用として、労働条件も保証されている。

一般的に、放課後児童クラブに勤務する指導員については、フルタイムの労働時間ではなく、労働条件がフルタイム勤務の雇用者に比べ悪いことが多いが、山三育成室の正規雇用の指導員については、上記のような方法により、フルタイムでの正規雇用となっている。

4 山三育成室における保育内容について

(1) 日常の保育について

山三育成室については、主任指導員が千里丘北育成室から異動により赴任し、また、過去に吹田市の直営育成室で勤務経験がある者が複数の配属されている。

運営開始当初から、丁寧な引き継ぎ保育により、大きな混乱もなく、入室児童と指導員との一体感のある育成室運営が行われていたが、平成29年度はそれがより一層進んだ安定した運営となっていた。

保育内容については、室内や運動場での集団あそびや、自由あそび等、先行して委託運営している千里丘北育成室でのノウハウを生かし良好に行われおり、子ども達が楽しく、夢中になって遊ぶ姿を見ることができた。また、指導員も子ども達の輪の中に積極

的に入り、活動的に関わっていることも、育成室運営の安定に大きく貢献しており、現在の委託事業者の育成室運営についての方針が、子ども達のニーズに一致していることをうかがい知ることができる。

秋には「すずめ祭り」という、入室児童が学年縦割りの班に分かれて、それぞれの班がコイン落としや、ボーリング、ゲートボール等の催し物を企画・運営し、太陽の広場（放課後子ども教室事業）に参加している小学校の児童を招待し、一緒に楽しむイベントを行った。大掛かりなイベントを開催した児童の喜びと達成感も大きく、集団づくりを軸とした児童の健全育成を図る運営を感じ取ることができた。

配慮を要する児童への保育についても、放課後子ども育成課SVによる助言を参考にしながら、加配指導員を中心とした手厚い保育がなされており、他の児童との関わりの中で、保護者ともしっかりと連携を図り、良好に進めることができている。

(2) おやつ提供について

おやつ提供についても良好に行われている。児童が育成室に来る時間が早い日にはパン等の腹持ちのよいものを提供する等、アレルギーを有する児童への対応や衛生管理の徹底等も含めて、堅実に提供がなされている。

しかしながら、他の育成室同様に、おやつ量や好き嫌いの好みに関する要望は、少ないながらも保護者から上がっており、日々試行錯誤を行っている。

(3) すずめふれあいクラブ（事業者独自のプログラム）について

山三育成室では、年3回（学期中に1回）、「すずめふれあいクラブ」という、親子参加プログラムを行っている。育成室の開室日である第4土曜日の午前中を利用して、親子のふれあい、保護者同士の親睦、指導員と保護者との関係づくりを目的として、ゲームを行い交流を図っている。ゲーム終了後は、茶話会の形式でおやつパーティーを行い、指導員から普段の育成室の様子の話をしたり、ビンゴゲーム等で親睦を深める姿が見られている。普段は多忙な保護者にとって、子どもとの触れ合いを楽しむ有意義な時間の一つとなっており、他の家族と交流を図ることができる貴重な場となっている。親子での参加率も非常に高く、保護者ニーズに合った、有効な事業者独自プログラムとなっている。

(4) 小学校・保護者との連携について

山三育成室については、多忙な保護者にできるだけ負担をかけない運営を心掛けている。保護者の来校回数を少なくするために、小学校の懇談会と日程を合わせて個人懇談を行っている。

小学校の教員も育成室に来室し情報交換を行うことができおり、小学校と育成室の連携による切れ目のない運営を行い、入室児童が混乱なく生活を送れるよう工夫がなさ

れている。

6 山三育成室に関する保護者アンケートでの意見について

平成 29 年度中に、山三育成室の入室児童の保護者に対して 2 回のアンケートを実施しているが、その集計結果を通して検証を進めていく。

(1) 指導員に関する保護者アンケートの結果について

年間アンケートにおいて、指導員についてどのような感想を持っているかについて、肯定的な回答と否定的な回答を集計したところ、【表 2】のように、否定的な意見が全くないことが分かった。「児童の相談に乗り、児童の気持ちに寄り添うことができていた。」「いつも明るく、元気に児童や保護者と接することができていた。」との意見が多く、子ども・保護者から大きな信頼を得ていることをうかがい知ることができる。

【表 2】指導員についてどのような感想を持っているか

肯定的意見	否定的意見	未回答・その他	合計
99.2%	0%	0.8%	100%

(肯定的意見)

- ・児童の相談に乗り、児童の気持ちに寄り添うことができていた。
- ・指導員は児童の輪に入り、積極的に児童とかわりを持っていた。
- ・育成室での出来事を、連絡帳や電話等を使い保護者に適切に伝えることができていた。
- ・危険なことやルール違反には毅然とした態度で、注意をすることができていた。
- ・いつも明るく、元気に児童や保護者と接することができていた。
- ・清掃や整理整頓など、育成室をきれいに保つため努力していると感じることができた。
- ・児童のことを丁寧に見ている印象があり、安心感を持つことができた。
- ・指導員も子ども達の集団に交じって、楽しんでいるようであった。

(否定的意見)

- ・表情が暗く、一生懸命仕事に取り組んでいないように感じた
- ・児童と積極的に関わっていないように感じた
- ・危険なことやルール違反に対して、傍観の姿勢が感じられた
- ・子ども達の気持ちを考えずに、業務を進めている印象を受けた
- ・日常の子ども達の様子を、連絡帳や電話でもっと知らせしてほしいと思った
- ・保護者との距離感があり、気軽に声を掛けづらかった

(2) 児童・保護者の全体的な満足度に関するアンケート結果について

育成室全般について、入室児童がどの程度「楽しい場所となっているか」【表 3】、及び保護者にとって「どの程度満足できるものとなっているか」【表 4】を尋ねる質問である。

児童・保護者へのアンケートともに、「ウ」より低い評価は得ておらず、育成室全般に対

して、児童・保護者ともその運営に対して満足していることを表す結果となっており、今後も現行の運営方法を継続することが望ましいと考えられる。

【表3】児童の満足度

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	未回答	計	
とても楽しい		どちらでもない				つまらない					
83.3%	5.6%	5.6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5.6%	100%	

【表4】保護者の満足度

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	未回答	計	
十分満足できる			どちらでもない				不満である				
77.8%	11.1%	5.6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5.6%	100%	

7 終わりに

山三育成室運営業務について、放課後子ども育成課職員による巡回や、保護者アンケートの結果等を用いて検証を行ってきた。現在の委託事業者における運営内容については、継続して非常に良好に行われていると判断できる。アンケートの自由記述欄においても、「子どもが楽しそうにしている」等、子ども達が育成室を楽しんでいる様子が書かれた記述を多く見ることができ、子ども達にとって「育成室は楽しい場所である」との認識が広がっている。

今後とも現在の方針を継続し、保護者、学校、放課後子ども育成課とも連携を密にしなが、運営していくことが最善であると思われるが、現在の児童・保護者からの高い評価に慢心することなく、更なる向上を目指し、運営を行ってみたい。